

第5学年 道徳 年間学習計画

目標

- (1)よく考え、自分の力で判断し、約束やきまりを守って行動できる子どもを育てます。(規範性を育みます)
- (2)相手のことを思いやり、互いに協力し合って、進んで仕事ができる子どもを育てます。
- (3)生命を尊重し、自然環境や社会福祉などに目を向け、これらを大切に子どもを育てます。

内容としては

- ① 主として自分自身に関すること。
- ② 主として他の人とのかかわりに関すること。
- ③ 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること。
- ④ 主として集団や社会とかかわりに関すること。

があります。

年間指導計画

	主題名	内容
前	駅前広場は、だれのもの	社会の一員として自覚をもって進んで公共のために尽くそうとする態度を育てる。
	オーストラリアで学んだこと	心のこもった礼儀の大切さを知り、時と場に応じて行おうとする態度を養う。
期	うばわれた自由	自分ができることを最後まで全力を尽くしてやりぬこうとする心情を育てる。
	友の命	互いに信頼し合い、その信頼を裏切らない行動をしようとする心情を育てる。
	百シヤアのふたごしまい	自らの健康を見直し、節度を守って元気に生活しようとする態度を養う。
	見えた答案	正直で陰ひなたなく、常に明るく誠実に行動しようとする態度を養う。
	ペンギンは水の中を飛ぶ鳥だ	創意工夫をこらし、積極的に新しい分野を切り開いていこうとする心情を育てる。
	ひさの星	美しい心に感動する心を育てる。
	愛の日記	だれに対しても偏見を持つことなく、公正公平にし、正義の実現に努めようとする態度を育てる。
	一ふみ十年	自然の偉大さを理解し、自然を愛護する態度を養う。
	戦争・原子ばくだんがうばったもの	被爆体験記をもとに、戦争や原爆がうばったものについて考えることを通して、戦争の非人間性を改めて実感するとともに、誰に対しても差別したり偏見をもったりすることなく、正義のある平和な社会の実現に努めようとする心を持つ。
	復興と人びとの願い	原子爆弾の被害を受けながら、広島市民のライフラインとなる水道を守るために自分のけがを顧みず働いた堀野九郎さんの姿を通して、郷土の伝統や文化を育てた広島市の先人の努力を知るとともに、郷土を愛する心情を養う。
	かれてしまったヒマワリ	集団の中での自分の役割を自覚し、主体的に責任を果たそうとする心情を育てる。
	好きなだけ楽しんでおいて	きまりやマナーを守って自分の義務や責任を進んで果たしていこうとする意欲を育
	イルカの海を守ろう	自然のすばらしさを知り、自然や動植物を大切にしようとする態度を養う。
	世界中の子どもたちとともに	社会に奉仕することの大切さを知り、公共のために役に立つことをする心情を育て
	しまった	資料の中心人物の心情に寄り添いながら、係や委員会がなぜあるのかを考え、身近な集団の中での自分の役割を自覚し、主体的に役目を果たそうとする意欲を育てる。

後	それっておかしくない	誰に対しても、差別をすることや偏見をもつことなく公正に判断し、公平に接していこうとする意欲を育てる。
	名医、順庵	自分のことばかりでなく、広い心で相手の立場や気持ちを受け入れようとする態度を養う。
期	イチロー	自分ができることを最後まで全力を尽くしてやりぬこうとする心情を育てる。
	最後のおくりもの	思いやりの心をもって、相手の立場にたって親切にする心情を育てる。
	ケヤキの木の下で	人間の優しい心や美しい行為に気づき、素直に感動する心を育てる。
	流行おくれ	自分の生活を振り返り、ものを活用しているか、むだづかいはないかを反省し、節度を守ろうとする態度を養う。
	ブランコ乗りとピエロ	けんきよに、広い心をもって相手の立場や気持ちを受け入れようとする態度を養う。
	人間をつくる道	我が国の伝統と文化を尊重し、それらを育ててきた郷土やわが国を愛する態度を
	正月料理	日本の伝統や文化に対する理解を深め、日本人としての自覚と誇りを持って国を愛する態度を養う。
	同じ空の下で	外国の人々や異文化の中に、自分と共有される多くの感性や思いがあることに改めて気づき、それを大切にしながら国際親善に努めようとする心情を育てる。
	正しい手当てができるかな	救命救急法を学び、命の大切さや、思いやりの心を育む。
	オトちゃんルールはあたりまえのルー	相手の立場や気持ちを考えて、温かく親切にする心情を育てる。
	くずれ落ちただんボール箱	困っている人を見たときは、その人の身になって考え、親切にしようとする態度を育てる。
	わたしのボランティア体験	社会に奉仕する喜びを知って、公共のために役に立つ心情を育てる。
	感動したこと、それがぼくの作品	自分の長所を知り、よりよく伸ばそうとする意欲を高める。
	ありがとう上手に	わたしたちの生活が、互いの助け合いや協力で成り立っていることを理解し、感謝する心情を育てる。
	バトンをつなげ	学校に愛情を持ち、学校の一員としての自覚を持って、自分たちの手で学校をよりよくしようとする心情を育てる。
	もう一人のお友達	外国の人々や文化について知り、世界の人々と共存していることを理解し、国際親善に努めようとする心情を育てる。

評価について

児童の生活の様子、アンケート、作文、日記、ノート、ワークシートなどにより、日ごろからその実態を把握して指導に生かすただし、道徳の時間に関して数値などによる評価は行いません。